

漁海況予報事業

仲村 俊毅・十三 邦昭・大川 光則

菊谷 尚久・中川 賢三・中田 凱久

涌坪 敏明・黄金崎栄一・植木 龍夫

発表誌名

昭和62年度漁海況予報事業結果報告書

抄 録

I 海 況

1. 日 本 海

対馬暖流域の水温は、全般に平年並みかやや高めで推移した。対馬暖流の水塊深度は3～7月までの間は平年並みかやや浅め、9月以降ではやや深めに推移した。暖流巾は舳作線では平年を下回ることが多く、十三線では上回ることが多かった。北上流量は3～7月の間は平年並みかやや下回り弱勢傾向で推移し、9月以降では平年をやや上回り回復に転じた。

2. 太 平 洋

津軽暖流の流勢は、6月がやや弱勢だったほかは、平年並みかやや強勢な状態で推移した。親潮系水の分布域は沖合にとどまり、11月にはほとんどみられなくなるなど弱勢な状態が続いた。

II 漁 況

スルメイカについてみると、沿岸スルメイカは前年に比べ日本海側で2倍、津軽海峡で1.3倍・太平洋で0.6倍となっており、日本海側での好調が目立った。日本海沖合スルメイカは、過去最低となった前年を2倍あまり上回った。沿岸・沖合を含めた全体では前年を2倍弱上回り、平年を若干上回る水揚げとなった。

アカイカは、流網では過去最高の水揚げとなったものの、釣では過去最低だった前年を更に大きく下回った。釣・流網を含めた水揚げ量では、平年を若干上回る水揚げとなった。